

学校 教育 目標	◎人とのかわり合いを大切に教育を推進し、豊かな人間性をもった児童・生徒を育てます。 ○学習の基礎・基本を習得し、それらを活用して、主体的に課題解決する力を育てます。 ○自他の生命と人格を尊重し、健やかな成長を心がける姿勢を育みます。 ○様々な人とのコミュニケーションを大切に、地域・社会の一員であることを意識するとともに、グローバル社会へ視野を広げることができるようにします。				
	創立 17(11) 周年 2 学期制	学校長 根岸 淳 副校長 小)杉山典加 中)最上玲子	准校長 井上晋吾	小学部 一般学級: 18 個別支援学級: 5 中学部 一般学級: 6 個別支援学級: 3	児童数 494 人 生徒数 202 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○コミュニケーション力 ○表現力 ○情報活用力	◎「すすんで挑み、自分をみがく」ことができる子ども ～自ら「気づき、考え、行動する」へ～ ○「9年間 継ぎ目はないが節目は大切に教育」の実践推進 ○学習者が主体の誰一人取り残さない学びの実践研究 ○独自教科「コミュニケーション・表現」科の実践改善

中期 取組 目標	○「9年間 継ぎ目はないが節目は大切に教育」の実践推進 ◆小中一貫カリキュラムの改善 ○学習者が主体の誰一人取り残さない学びの実践研究 ◆自立的な学習者(自己決定、援助要請～協働(伴走))の育成、様々な人が学び(尊重し)合う共生社会の実現に向けた実践研究 ○独自教科:「コミュニケーション・表現」科の実践推進 ◆様々な人と関わる中で自他のよさを認め合い、自らの力を発揮しながらよりよいものをつくりあげる教育活動の創意工夫
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	◆小中一貫カリキュラムの改善 ◆自立的な学習者の育成(自己決定、援助要請～協働(伴走))に向けた実践研究 * 個別最適な学びと協働的な学びの一体化 ①小中教科会・共同授業研究等の充実による、自己決定・協働の場面を設定した、学習者が主体の小中一貫(教科横断的)カリキュラムの内容の検討・改善 ②「学習者が主体の誰一人取り残さない学び」の実践に向けた、教育委員会、横浜国立大学(D&I)との実践研究の推進 ③教科等の資質・能力を育成するための、ICT活用の推進
徳	共生社会	◆様々な人が学び合う共生社会の実現に向けた実践研究 * 教育のユニバーサルデザイン ①児童生徒指導(理解)、教育相談、特別支援(インクルーシブ)教育、道徳教育、人権教育、いじめ防止 ②特別支援教室:学習室、校内ハートフル、国際教室 等 * デジタルドリル、授業配信 ③児童生徒による、学校生活(ルール)の見直し ④学校家庭地域連携による人との関わりの充実 * 学校HP、すぐる活用
体	健康・安全	◆体育・健康に関する指導 ①自らの心身の健康に興味関心をもち、健康の保持増進のため自己管理できるように育てる(Well-being) ②9年間の食育を通して健康や成長に興味関心をもち、自らの食に関する自己管理能力を育てる ③防犯・防災への意識を育てる
公開	独自教科「コミュニケーション・表現」科	◆様々な人と関わる中で自他のよさを認め合い、自らの力を発揮しながらよりよいものをつくりあげる教育活動の創意工夫 ①独自教科の実施、改善(きりたまタイムの充実、あすなるを通した表現力の向上) ②キャリア教育の充実 ③児童生徒会活動の充実
いじめへの対応		①アンケートや教育相談を通して、いじめの早期発見、早期解決に向けて組織的に対応する。 ②いじめについて考える授業等を設定し、未然防止に向け、「いじめは許さない」学校風土づくりを行う。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①人材育成指標や校内メンターを活用して、校内研修を計画的に行い、ミドルリーダーや経験の浅い教職員の育成を図るとともに、キャリアステージに応じた人材育成に取り組む。 ②各行事や諸会議を効率的に遂行するために改善・精選し、教職員の労働裁量時間を増やし、時間外勤務時間が45時間を超える教職員を減らす。 ③共有フォルダやグループウェア、デジタル採点などのICT機器を活用してペーパーレス化を行い、業務の改善を図る。
担当	小中企画会	
地域学校協働活動		①学校運営協議会を充実させ、委員からの意見を学校経営に反映する。 ②地域ボランティアを積極的に活用し、教育活動の充実を図る。 ③地域の方々に学校の状況を知ってもらうための情報発信に努める。
担当	地域連携担当	